第 2015-28 号

恵みと真理のニュース

2015 年 7 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

主の日が福になり、主の日に礼拝し奉仕することが嬉しくて楽しく幸せなことか確実に悟りました

私は青年姉妹です。何年前の事ですが教会学校の児童部で教師として奉仕していました。夏休みに向かって高校のときに短い期間実習したレストランでアルバイトをするようになりました。実習するときには大変でしたが職員達と仲良くなり仲良いお客も多かったです。週末はお客様も多くて売り上が上がる料理屋さんなので日曜日も行ってずっと仕事をしなければならなかったです。主日礼拝を守らなく教会学校の奉仕も休む状況になりました。冬休みの期間だけ働くから一ヶ月後、礼拝が終わったらもっと熱心に礼拝すれば良いだろうと思いました。そして、担当の伝導士に電話をしてアルバイトをするので教会にいけないと言いました。結局大事な行事にも参席できませんでした。主日に教会へ行かないのが心にかけていて休みの日を日曜日に変えてくださいと願いましたが休める状況にならなくて教会を1ヶ月間守らなかったです。

アルバイトをしながら人々と仲良くなり認定ももらって期待の以上給料ももらいました。店では私にもっと良い条件で1ヶ月間働くのを頼みました。私も長く働きたかったですが、時間が過ぎて心も不安になり同じクリスチャンで仲良い友達に私の心の中を話しました。“当然、主日を守ることも知っているし、今こと仕事をやるべきでもないのも知っているよ。どころが、ここで共に働く人々の仲良くてこの仕事が好きでやめたくないのも事実だよ。一ヶ月だけやってやめるとこの人々とこれから仲良くなる事が難しくなると思うよ。今、様々なことで悩んで恐いるんだ。”

すると、友達は私に言いました。“シュジョン、人々を恐れなくて神様を考え畏れてね”友達からその話を聞く瞬間、恥ずかしくなり隠したくて顔を上げられないくらいでした。単純明瞭に言ってくれた友達の話が心に強く残りました。今までの私の信仰を振り替えてみました。その次の主日にはアルバイトを休んで教会に行きました。部署の伝導士にアルバイトの事で約束したので一ヶ月だけやって辞める決心を伝えました。すると伝導士は私に言いました。“本当によく考えました。実は何日前先生の夢をみました。共に歩いて教会が見えて私が先生に入りましょうと手を取ったら今は教会にいけませんと言いました。すると、急に周りが暗くなり教会の扉から光が見えその光がどんどん大きくなり照らしました。それで先生の手を取ってその光に向かって手をだす夢をみて起きました。起きて先生のため祈りました。先生が主日を守り子供達を支えることに妨げるその事を辞めるように先生に決断力と充満な使命を下さるように祈りました。

その話を聞く間あまりにも感謝して波だが止まらなかったです。友達と伝道しを通して私を対する主の相変わらず愛とどんな状況でも見守られ私とともにいる主の愛を感じました。神様の前で切に悔い改めました。主日に教会で礼拝し支え清く生活しなかったこと、無責任で教師の職分を疎かにしたことを悔い改めました。

次の日にレストランで行ってすぐ運営する課長に今月まで約束した日までやって辞めますと言いました。許可してくれないと思いましたが私の考えと違って課長は私の決心を聞いてくださいました。神様に感謝しました。その後も、神様に感謝した事が続けました。私がアルバイトをやめた日、知らない番号から電話が来ました。主日は休み私の専攻にも助けになり教授を助ける仕事で良い機会が与えられました。神様の恵みです。そして、次の実習準備する中で神様には私のためもっと良いところを予備してくださり私を導いてくださいました。私の将来のためもっと良いことを経験して習い実力をあげることが出来ました。このようなな経験を通して今は主の日がどれほど福になり尊い日で礼拝が大事で主を喜ばせる事を知りました。主日に礼拝し奉仕することがいくら楽しくて幸せであることを切に悟りました。

神様は私が考えられない祝福を与えてくださいました。私が願った職場も与えて下さり、神様のビジョンで熱心に働くようにします。また、青年奉仕宣教会の重な責任を任され真実な聖徒を仕える喜びを感じて神霊なやりがいを得ました。まず、神様の国と義を求めるように祈り努力する時、神様は生活の苦難を乗り越えるように恵みを与えてくださいます。神様に全ての栄光を捧げます。これから相変わらず主だけを愛し主だけを支えるように念を押します。

[信仰コラム]　聞　く　神　様

″わたしは主を愛する。主はわが声と、わが願いとを聞かれたからである。主はわたしに耳を傾けられたので、わたしは生きるかぎり主を呼びまつるであろう。。″(詩篇 116:1、2)

聖書には神様が人生におっしゃることだけでなく、人生の言葉と訴えを聞いている事実を啓示しています。これも奇異で感動的なことです。 権能と愛が充満した神様が人生の言葉と訴えを聞いている事実を知って確信し、自分に適用する人は全部数え切れないほど豊かな神様の恩寵を体験することになります。

第一に、聖書が警戒して禁じている言葉をしないでください。

聖書には私たちが警戒して排除すべき言葉が何かを記録しておきました。 うそをつかないでとしました。嘘は他の人をだまして自分の意味を成して私欲を満たす行為と聖徒らはこれを嫌悪しなければなりません。新約聖書に見れば、神様の前でうそをつく時恐ろしい稼ぎ降ることが記録されています。 アナニアが彼の妻サプビでともに、土地を売り、その値でいくらを隠して一部を使徒たちに捧げ、全否定かのように嘘をついてペトロの使徒にしかられて魂が出て死んでしまいました。 嘘は神の本性と反対されるものです。 そして汚い言葉をしないでって言いました。 聖徒は、人の心を汚す冗談などロにしてはいけません。 また、悪い話をしないでとしました。 怨言もしないでって言いました。 神様は人の話を聞きます。 そして、その言葉に対して相応の結果を得るようにします。

第二に、神様の性格に一致して、神様の意志に合致した言葉をしてください。

神様の性格に一致して、神様の意志に合致した言葉をする者に神様が権能の手を差し伸べてくれます。 ローマ人百夫長が下僕の中風病気を治してほしいと神様の能力と権勢と愛に基づいた言葉で、イエス様に懇願した時、イエス様がこれを聞いて百夫長の信頼を称賛して彼の家来を直させていただきました。 神様の意味と性格は聖書に啓示されています。 聖書は私たちが生活の多様な場合でどのように述べて、何を言うのかを教えてくれています。

第三に、神様に叫んで祈念してください。 神様が我々の訴えを聞きます。

神様が私たちの唱えことと祈りを挙げウシンダヌン事実は性もらに大きな慰めと希望を与えます。 神様は彼の選んだた者たちの唱えことと玩具に耳を傾けます。神様はイスラエルの子孫がエジプトで虐待を受けても神様に唱えないので、彼らを放っておきました。 耐えられなかったイスラエル子孫が初めて神様に唱え始めると、神様はモーゼを送り、彼らをエジプトで導いて出しました。 神様が私たちの祈りを挙げるがその回答の方法と時期はいろいろです。 まっすぐ回答するときがあります。 神様はヨシュアの祈りに即時に回答して太陽が滞在して月が止まることにしました。しかし、長い間お祈りしなければならない時があります。 ダニエルは 21 日間祈祷した後、回答を受けたことがあります。 また、粘り強く請わなければならない時があります。(ルカによる福音書 11:5~8)

たとえ私達が祈念するようになれないとしても神様が回答を拒絶したことがありません。 イエスさまがペトロに″わたしのしていることは今あなたにはわからないが、あとでわかるようになるだろう。″(ヨハネによる福音書 13:7)とした神様がどうして私たちが救ったとおり回答しないてについて今は全部理解しないが、後日には全部分かるようになることです。 そして時には私たちの求めたのと同じように答えたりもするが、私たちのすべての唱えことと玩具について神様が善良た手で回答してくれます。 ただ、私たちが留意しなければならないのは″もしわたしが心に不義をいだいていたならば、主はお聞きにならないであろう。″(詩篇 66:18)はお言葉です。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

永遠の命にあずかるように定められていた者

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

誰でも救いに関して質問を持つということは良いことです。 そしてその質問に対する正しい答を持つことができたら加えることができなく恵まれた事です。 聖書は救いの真理が記録されている本です。 罪人が罪の赦しを受けて永生を得て神様の子になって天国に入ることが救いの核心です。 このような救いをくださろうと神様がイエスキリストを世の中に送りました。 イエスキリストが父のみ旨に従って人間の罪を担当して十字架に釘付けられて血を流れて死ぬ審判を代わりに受けました。 しかし葬られてから三日ぶりに復活しました。 これが福音です。 誰でもこの福音をきいて信じれば救いを得ます。 このような救いの法則は神様が決めたのです。 福音はこんなに単純で明瞭であるが一方ではその中に私たちの理解が及ぶことができない神秘があります。 人の理論と認識を超越する不可思議な秘密を神秘と言います。 神様のなさる仕事に対して分かれば分かるほど私たちの理解が及ぶことができない領域が多いという事実を実感します。 だから神様は聖書に啓示されたお言葉に対して私たちに理解をしなさいと言わないです。 理解ができなくても信じて従順しなさいとおっしゃいます。 今日は救いの福音に対して人々が持つ質問の中に二つをよく見ます。

第一質問です。

福音をきくことができなかったとか福音をきいても結局には信じないので滅亡を受ける人がいる一方に福音をきいて信じて救いを得る人がいます。 このようになる原因が何ですか? という質問です。

今日の本文に記録されるのを “異邦人たちはこれを聞いてよろこび、主の御言をほめたたえてやまなかった。そして、永遠の命にあずかるように定められていた者は、みな信じた。” としました。 ここに “定められていた”と翻訳された聖書原語は過去完了の受動態の分詞です。 説明しようとすると神様によってもう決まったことを意味します。 “それなら福音をきくことができなかった人と福音をきいても信じない人々はくやしくないか? このようにするのが神様の公義に適当なのか?” という質問ができます。

新約聖書 ローマ人への手紙, 9 章にその問題を扱っています。 イスラエル人々を例にあげてこんなに説明しました。 イスラエル人々は神様から霊的でも肉的でも特別な恵みをたくさん受けた人々でした。 肉体の血統にすれば世の中を救われる救世主がアブラハムの子孫であるイスラエル民族を通じていらっしゃいました。 それなのに神様の選んだ民であるイスラエル人々が神様が送った救い主であるイエス様を排斥して十字架に釘を打って殺す事に加わりました。 こんな事実をどのように説明しなければならないかという問題が起こります。

これに対する返事でアブラハムの子孫であると皆の神様の選択を受けた者ではないというのです。 アブラハムは二人の息子がいました。 イスマエルとイサクです。 そのふたりの中に選択された者はイサクです。 イサクは双子を生みました。 エサウとヤゴブです。 エサウとヤゴブふたりの中にヤゴブが選択されました。 神様の選択は人の行為による結果ではないです。 エサウとヤゴブが出生する前にヤゴブは選択を受けました。 その選択には人間の功労や努力が全然係らなかったです。 罪の中で生まれて神様の震怒と審判の下にある人々の中であわれみを受ける者を決めて、永生をくださる者を選ぶことは神様の絶対主権です。 福音をきくことができなかった人と福音をきいてからも結局には信じない人々がいて、福音をきいて信じて救い得る人々がいることは神様の絶対主権に属したのです。 これは神秘に属したことなので人がすべて理解することができないのが当たり前です。 しかしこれを信じることはできます。

二番目質問です。

自分が神様のあわれみを受ける者になって永生をくださることに定められていた者かないのかをどのように分かりますか? という質問です。

第一に、永生をくださることに定められていた人は十字架に釘付けられてから葬られ復活したイエス様を救世主に信じます。

イエス様外には救世主がいないと信じます。 聖書を読んで説教をききながらもこんな信仰を持つことができない人々がいます。 これらは聖書に啓示されたとおり信じないで自分のどおりイエスキリストと救いに対する固定観念を持っています。 イエスキリストは唯一の救世主であるのを信じる人は神様が永生をくださることに定められていた人です。

二番目で、神様が永生をくださることに定められていた人は足がつまずくしないです。

聖書で足がつまずくという用語は皆が信仰に関わって使われています。 新約聖書で “足がつまずくする。” この言葉は信仰の道から “倒れる、離脱する。” という意味を持ちます。 足がつまずくするというのは結局信仰が損傷を受けるとか喪失されることを意味します。 “足がつまずくさせる事のないことができない。” とイエス様がおっしゃいました。 信者を足がつまずくさせる原因がいろいろあります。 逼迫と脅威は足がつまずくさせる原因です。 最後の晩餐後にイエスキリストが弟子を連れてゲッセマネの山がある甘藍山にいらっしゃりながらおっしゃったお言葉が マタイによる福音書 26 章に記録されています。 “そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「今夜、あなたがたは皆わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼を打つ。そして、羊の群れは散らされるであろう』と、書いてあるからである。しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう」。するとペテロはイエスに答えて言った、「たとい、みんなの者があなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません」。イエスは言われた、「よくあなたに言っておく。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。ペテロは言った、「たといあなたと一緒に死なねばならなくなっても、あなたを知らないなどとは、決して申しません」。弟子たちもみな同じように言った ”(マタイによる福音書 26:31～35) としました。 ペテロを含めたイエス様の弟子は一様に大口をたたいたが実際にイエス様によって彼らに脅威が近づくようになると足がつまずくしました。

しかしイエスキリストが彼らのために祈ってつかんでくださったからまた回復するようになりました。 イエスキリストがあらかじめおっしゃるのを “シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」”(ルカによる福音書 22:31,32) としました。

誘惑は足がつまずくさせる原因です。 イエス様の弟子の中にカリオテユダは財物に対する欲心で誘惑を受けて大祭司長にお金をもらってイエス様を逮捕する事に岡っ引きになりました。

患難は足がつまずくさせる原因です。 患難にあえばその苦しさを耐えれなくなり足がつまずくします。 あるいは患難の中に悪人の栄えるのを見て気落ちして足がつまずくします。 詩編の記者は告白するのを “神は正しい者にむかい、心の清い者にむかって、まことに恵みふかい。しかし、わたしは、わたしの足がつまずくばかり、わたしの歩みがすべるばかりであった。これはわたしが、悪しき者の栄えるのを見て、その高ぶる者をねたんだからである。”(詩篇 73:1～3) としました。 詩編の記者は極限患難の中にいる時悪人の栄えるのを見てほとんど足がつまずくする所であったと言いました。 他の聖徒の聖徒らしくない言行が足がつまずくさせる原因です。 また聖書で自分がききたい言葉だけきいて見たいことだけ見ようと思う人は足がつまずくするようになります。 イエス様の弟子になろうと人々がたくさんいました。 ところで彼らの中にはイエス様がおっしゃるお言葉の中に彼らが受け入れるのに困難なお言葉があると言って足がつまずくになって行ってしまった者等がたくさんあります。 聖書で自分がきたい言葉だけきいて、見たいことだけ見ようと思う人々は異端で引かれて行くとか教会を離すことを見られます。 自分の肉体的な夢をつかむための目的にイエス様を信じれば足がつまずくするようになる日が来ます。 計画して推進した事が自分の願いどおりならなければ大きくがっかりします。 そして足がつまずくします。

どの場合にも足がつまずくしない人は神様が永生をくださることに定められていた人です。 真実の心で神様を愛する人はたとえ肉体が弱くて倒れてもまっすぐに回復して立ち上がります。 神様の審判と天国と地獄に対して記録された神様のお言葉を固くつかむ人は足がつまずくしないです。 苦難の中にも悪人の栄えるのをうらやまないです。 イエスキリストの審判台で受ける褒めと賞を慕うからです。 イエスキリストを信じる信仰に最高の価値と意味を置く人は足がつまずくしないです。 信仰を失えばすべてのものをすべて失うという事実が分かるからです。 イエス様はおっしゃるのを “足がつまずくさせることがあるのをよって世の中に わざわいがあり。” なさって引き継いで “足がつまずくさせる仕事のないことができない。” と告げました。 この世の中ではどこでも不可欠に足がつまずくさせることがあるものと決まっています。 神様が永生をくださることに定められていた人は礼拝を楽しがります。 集まるのを力をつくして祈祷に力をつくして主の仕事に力をつくしながら生きて行きます。

皆さんは自分が神様が永生をくださることに定められていた聖徒になったという証拠を皆さんの信仰と生活で見るようになる楽しみがあふれるように願いします。